

流山稲門会

【交譲葉】俳句の会 報告

令和七年四月句会（第一五五回）

兼題 「轉る（さえずる）」

催日 令和七年四月二十六日

開催場所 生涯学習センター

出席者 六名

投句者・選句者 七名

（二点句）

香りくる紅燃ゆる花りんご 艸寛
 吾を見て微笑む花あり紅香る 艸寛
 新学期揃いの帽子なびく道 互酬
 連れ立ちて桜行脚や夕あかり 小牧
 喜寿迎えよろず花咲けまだ若い 艸寛

（一点句）

轉りや靈園に人疎らなり 夢心
 通り過ぎまた引き返す桜月夜 小牧
 胸元に青きバツジや昭和の日 玄鳥
 水温み亀と緋鯉と軽鴨と 夢心
 狭庭での轉り聞かず十年余 徹心
 番鳥さえずり交わし寄り添いぬ 徹心

（投句）

渋滞の高速みやげは轉り 寿歩
 轉りや宴たけなわの恋歌かな 互酬
 轉れど聞こえないのか吾が心 艸寛
 鳥たちの轉りまねる子等の声 徹心
 料峭や着るもの迷い遅刻せり 徹心
 前庭に二羽の轉り茶にしましよ 寿歩
 初参加おしゃべりはずむ花の時 寿歩
 山荘の温泉たまご花曇 玄鳥
 卒業のあふるる涙校歌かな 互酬
 靈園を取り巻く桜今盛り 夢心
 鳴子百合今年も咲きし友偲ぶ 小牧
 二重三重落ちて積もれる八重椿 夢心

『句会後記』

春たけなわの四月、第155回目の句会が開催されました。

森川さんが所用で欠席でしたが、六人の参加で、会は今回の兼題のように和氣藹々の「轉り」を聞くことが出来ました。

選句の採点は5点句が入った「八重桜老父に歩調あわせおり」を軸に4点句二句、3点句が三句と続きました。

皆さん予定時間も過ぎたにも掛からわず元気に活発に会が進められました。これからも元気に楽しく進めて行きましょう。

（互酬記）

（五点句）

●八重桜老父に歩調あはせをり 玄鳥

選評：八重桜にも老父にもそれぞれの人生があり、それ相応に各自の生活を送っているのです。皆が桜の満開を満喫しているときに、もう少し待とうとしているのが、遅く花をつける八重桜です。老父も、多少タイミングのさがあるけれど、見事な花を咲かせ、今年も春を過ぎたのでしよう。八重桜と老父の組み合わせが見事な句です。

（艸寛記）

（四点句）

●さへづりや窓の明るき理髪店 玄鳥

選評：轉りはどうしても自然を念頭に置いた句に成りがちですが、この作者は自分を中心に詠んでいるのが斬新でした。明るい店内で鳥の轉りを聞きながら散髪をしているその気持ちの良さが伝わってきます。読後感が爽やかでした。

（小牧記）

●轉りを真似て草の葉遠き日々 小牧

選評：あの遠き日々、子供らは山や野で小鳥たちの轉る声を聴く機会が多々あった。夫々の鳥たちの轉る声の違いも聞き分けていた。

その轉りを、草笛を作り真似る子等の姿が目に見えかぶ。自然の中で、自由闊達に子供たちが遊んでいたあの頃へのノスタルジイが掻き立てられる句である。

（徹心記）

（三点句）

春霞今も燻ぶる山の肌 互酬

野良仕事終えて夕暮れ豆の花 寿歩